



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2023年11月20日 第1143号「週刊五十嵐レポート」

物価高から

帝国データバンクによると、燃料や原材料などの「仕入れ価格上昇」により収益が維持できず倒産した「物価高倒産」は2023年10月に86件発生した。2023年累計件数は10月まで639件と、前年(320件)の約2倍に達した。

倒産の要因別にみると、「原材料高」33.3%、「エネルギー高」30.5%、「包装・資材高」29.4%だった。

物価高倒産(定義)＝法的整理企業のうち、原油や燃料、原材料等の「仕入れ価格上昇」、取引先からの値下げ圧力等で価格転嫁できなかった「値上げ難」などにより、収益が維持できずに倒産した企業を集計。

ある社長の話。決算を締めてみると、思ったほど利益が出ていなかった。よくよく調べてみると、「運送費」「梱包資材」「ダンボール」が急激に値段が上がっていた。それに気づかず、従来通りの「配送費」を顧客に請求していた為、相当な額の損失をしていたことが判明。今後は、顧客に対し、詳細に「配送費」等の金額の上昇を伝え、配送費を値上げし、損失を解消し、更に利益向上をつなげる。

またある社長は、長い期間のデフレで自分自身がデフレマインドになっていた。これからのインフレ基調に対応して行くには、しっかり値上げして粗利を確保が大切である。値上げすることを顧客に指示されるよう、従来以上に顧客対応をしていき、また(値上げを許容できる)顧客を選別していくことも重要だと思った。

ランチェスター経営では、「商品3分に売り7分」という言葉がある。どんなに商品が良くても、営業力がなければ、顧客の手元に商品は届かない、買ってもらえないという意味。違う見方をすれば、値上げ交渉ができ、値上げしても顧客が商品を買ってもらえることでもある。「商品3分に売り7分」ができないと、物価高により粗利益が減り、最終利益もなくなり、じり貧になる。

コロナ禍で企業は選別され、コロナ明けの物価高、人件費高で更に企業は選別される。一つ一つの積み上げが粗利益を確保ができ、生き残る機会を作る。インフレのはじまり、成長の始まりでもある。

ちょっと
気になる出来事

11月17日付朝日新聞、「いま聞く」(インタビュー)は、フリーライターの斎藤淳子さん。彼女は、国際協力機構(JICA)北京事務所、在北京日本大使館などで働いた後、2006年から北京在住のライターとして中国社会の姿を伝えている。

貧富の格差や地域間格差など、中国のまだら模様は過去40年の急発展で強まってきたが、その原動力だった経済がここに来て変調を見せている。不動産不況だけでなく、多くの業界が勢いを失っており、斎藤さんの周りでも、給与が大幅に減らされたり、失業したりという例は少なくない。

日米や周辺国との摩擦が増え、国と国の関係ではとげとげしさを増す中国だが、そこに住む人々への愛着は変わらない。

「中国人と共産党は一体ではない。国家、党、人を区別しながら中国を見てほしい。中国にはものすごく面白い人たちがいる。一緒に面白いことができるはず。ナショナリズムにとらわれて、不自由になるのはもったいない」。

もっと自由に行き来ができるようになってほしいものです。



一口メモ
知識

一足飛びは危険

飛鳥(ひちょう)もって凶なり。(雷山小過 らいさんしょうか)

この「飛鳥」とは、まだ実力も経験もない者が縁故を使って一足飛びに立身しようとすることの喩え。

少し才能を認められただけで、高みまで行けると勘違いをする。

そして欲に駆られ、時に逆らい、分限を忘れてしまうと、結果として凶になる。

少し過ぎる時を説く雷山小過(らいさんしょうか)の卦(か)では、自分の力量、分限、そして時を大きく行き過ぎると禍(わざわい)になると教えている。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

